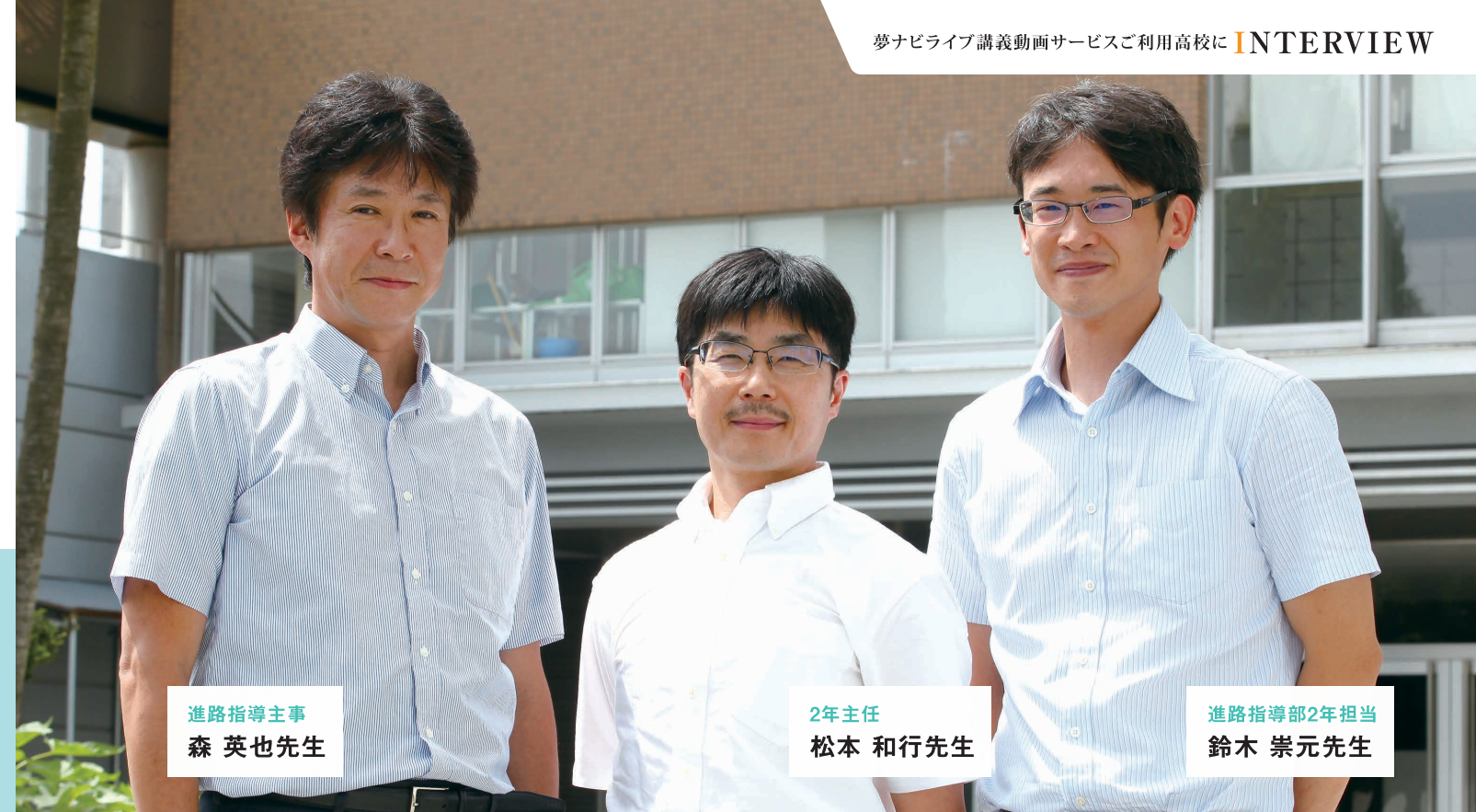




進路指導主事
森 英也先生

2年主任
松本 和行先生

進路指導部2年担当
鈴木 崇元先生

自分の特長を生かした将来を、 自ら設計する強い意志を育てたい

群馬県立渋川高等学校

群馬県の渋川高等学校は、進路目標の実現やグローバル社会、地域社会に貢献できる人材を育成するため、大学進学を見通したキャリア教育「iProgram (アイプログラム)」を実施しています。その一環として、昨年度から1年次の個人テーマを設定する段階で夢ナビ講義動画の視聴を取り入れ、自身の得意な分野や社会に貢献できる分野を見つける取り組みをしています。またそれを発展させ、講義動画のタイトルや教授の講義の仕方を参考にしてテーマを決め、研究と発表も行っています。



自分で自分自身の 将来設計をする

森 iProgramを始めて今年で4年目になります。導入前は、知名度や偏差値といった基準で漠然と志望校を決めてしまう生徒が多かったです。そうではなく、「この大学でなければだめだ」という強い気持ちを持って大学をめざしてほしい、つまり将来の目標を高く掲げ、志を強く持った上で大学進学をめざす生徒を育成したいと考え、iProgramを始めました。

松本 1年次は、自分がどのような形で社会に貢献できるのかを知るために、「自己を知ること」を目標に掲げています。情報や意見の交換を通して、自身の適性や美点など得意な分野をみつけていきます。具体的には、将来の職業を考え、「物理・化学・情報系」「生命・医療系」「人文系」「社会系」「人間系」の5系統の中からゼミを選び、仲間と切磋琢磨しながら個人テーマ研究を進めていきます。同時に、その得意分野をどう生かすのか、社会の中での活躍の場所や自身の生きる道を知るために、「社会を知ること」も目標としています。



鈴木 入学当初の生徒に向けて、iProgramを通じて、勉強だけではなく自分の得意分野を見つけながら、

将来自分がどう社会貢献できるのかを考え、自分で自分自身の将来設計をすること、その強い意志と気持ちを持って学校生活に取り組んでほしいと伝えています。このiProgramとは、「I will program myself」で、自分で自身の将来を設計するんだという意味から、この活動のネーミングを決めました。

森 「i」を小文字にしていることには理由があります。それはiは、私（「I」）という意味だけではないということです。「一連のカリキュラムを通して、さまざまなものに興味を持ち、鼓舞されていく力（interested、inspired）、革新的に物事を考えられる力（innovative）、外部に発信できる力（informative）、自立する力（independent）を身につけてほしい」という思いがあります。自分がどう社会に貢献できるのかを確認しながら、自分の得意分野をみつけ、自分で自身の将来設計をし、強い意志、強い気持ちを持って取り組むことが出来る生徒の育成が、この「iProgram」の狙いです。



鈴木 2年次からは、大学や学問分野との関連付けを強くするために、専門領域の理解を深めていきます。自分がやりたいことや自分に見合ったテーマが、大学ではどんな研究テーマになるのか、学ぶことができる学部や学科はど

こなのか、オープンキャンパスへの参加や大学調べを通して、テーマを深く研究していきます。

松本 最終的に3年次では、小論文演習を行います。1、2年次に身につけた知識や経験を生かしながら、与えられたテーマに対して自分の答えを伝えられる能力、つまり発信力を身につけてもらいたいと考えています。この頃には、生徒も志望理由書を具体的に書けるようになり、大学進学のモチベーションにつながっていると感じます。

森 昨年卒業したiProgram二期生の中には、国立大学に推薦合格した生徒がいました。この生徒は1年の時、「里山の環境保全」を研究テーマに選び、ゼミ代表としても発表を行いました。大学入試の面接では、iProgramの研究内容や自身の興味のあることについて話し、センター試験の結果が厳しい中でも大学から評価をいただけたようです。生徒の熱意をしっかりと見てくれているのだと思い、とても嬉しく感じました。さまざまな生徒の、さまざまな能力に目を向けて選考する大学が今後増えていくことを考えると、iProgramで学んだ経験が、少しでも大学入試に生かされればと願っています。

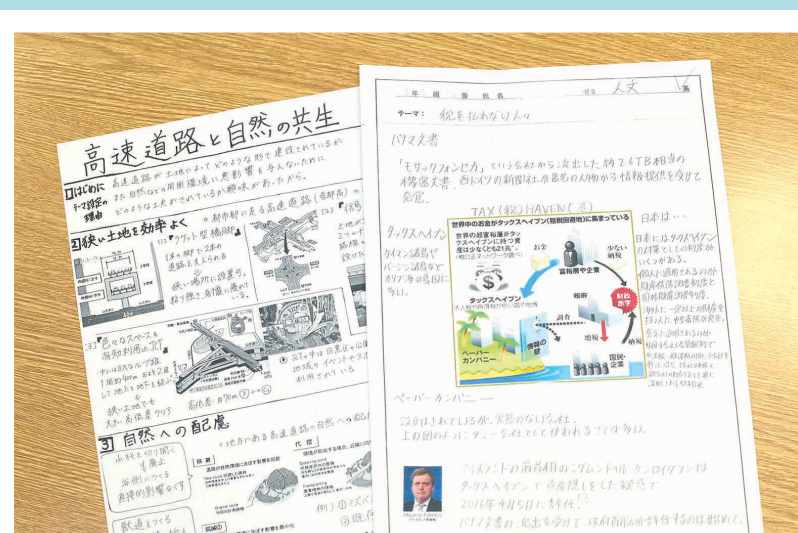
夢ナビ講義動画が 研究テーマを決めるきっかけに

森 iProgramを進めていく中で、やは

りテーマ設定の部分で悩みが多くありました。入学したばかりの1年生ではなかなかテーマを決めることができないからです。高校受験が終わった直後でもあることから、社会のこと、自分の適性や得意分野についても認識できていませんし、将来の進路や具体的な目標も定まっていません。そんな中で自由にテーマを決めて研究しなさいと言われても難しいのです。

松本 また、これまでの学年の個人テーマ研究の発表を見ると、自分で研究した内容のほうではなく、よくわからないまま発表する生徒や、知らない単語を理解しないで使っている生徒がたくさんいました。つまり、発表することや資料を作成することが目的になってしまっているように感じていました。

森 だからこそ、生徒一人ひとりが当事者意識を持って、自分自身が本当に取り組みたいテーマについて研究していくためには、始めの1年次のテーマ設定が非常に重要だと考えました。そこで夢ナビの約2000本もの講義動画の中で、自分が興味のある分野について専門的な話



▲生徒が実際に作成したレポート

イントで出てくるようになりました。

松本 例えば、ある生徒は「ミドリムシの活用について」という研究テーマを選びました。もともと生物に興味のあった生徒でしたが、ピンポイントにミドリムシをテーマに持ってきたのは、おそらく講義動画を視聴する中で研究のヒントになることがあったのでしょう。その着眼点に教員の側も驚かされました。

鈴木 ほかに、視聴する講義動画のタイトルが研究対象のヒントになったケースもあります。例えば、夢ナビの講義動画タイトルが「地方をどう活性化するか」だった場合、その研究内容を群馬県のある地域に応用することもできます。応用の仕方がわからずに迷っている生徒には、教員から説明やアドバイスをしながら活用しました。生徒は教授の研究や調査方法を参考にすることで、具体的な研究イメージを持つて個人テーマ研究を進めることができました。たとえています。



松本 その後、設定した個人のテーマを研究し、最終的には全く知らない人に対しても内容がわかるように、自分の言葉で伝える発表をしています。その際にも教授の講義の仕方がお手本となっており、そうした面でも講義動画は役立っています。

森 夢ナビ講義動画を利用して感じ

たことは、大学教授にこれだけさまざまな分野の講義をしてもらうことは、一つの高校レベルでは到底できないということです。高校でも、例えば分野ごとの模擬講義や進路講演会は実施していますが、それがピンポイントに「刺さる」生徒の割合というのは限られています。ですからこれだけたくさんの夢ナビ講義動画の中から、生徒自らが選択できるということは本当に素晴らしいと思っています。

研究テーマと進路選択との結びつき

鈴木 私は、これまで担任として3年生を3回送り出してきました。その中で年々、生徒の進む分野を指導するところが難しくなっていると感じます。「こういうことをやりたい」と具体的にやりたいことを見定めてくる生徒も増えていきますので、教員の側も生徒と一緒に、希望にマッチする大学、学部学科を探していく必要があります。

森 昔と違って、大学の学部名を聞いただけでは何を勉強するところなのかわかりづらいケースが増えました。例えば、「人間環境学部」「環境人間学部」など似たような学部名が多いことや、カタカナの学部も増え、漠然とイメージは湧いても、具体的に何が違うのかわからないこともあります。そういう意味で学部選びが難しく、生徒にとって

は選択ミスをしやすい環境にあると感じます。

松本 例えばですが、自動車に関わる仕事がしたいという生徒がいた場合、おそらく頭に浮かべていることは、「自動車を作ること」という1つしかないと思います。しかし、自動車といっても、エンジンなどの部品に関わる仕事、デザインを考える仕事などさまざまあります。このように、自身のやりたいことに近づく道筋はたくさんあるはずなので、生徒の視野を広げる指導がとても重要だと思っています。

鈴木 iProgramで宇宙服を個人テーマ研究にした生徒がいました。ただ漠然と宇宙に興味があるのなら、宇宙について知るといったテーマで惑星について調べたと思いますが、この生徒の場合は「宇宙服をどうやって作るか」という



歴史から調べていったので、工学系にも応用ができると気づいてくれました。

森 iProgramでは、生徒がさまざまなものに興味を向けながら個人テーマ研究を進めていく中で、自身が知らなかった関連分野の存在に気づくことや、思いもよらない興味や選択肢に出会うことがあると思います。自分の興味や関心の先に新たなテーマや疑問をみつけていくことで、将来との関連性を見極め、本当に自身が専門的に取り組みたい分野を決めることができます。つまり、生徒は個人テーマ研究をしなければ見えてこなかったものが見えてきているということです。

研究したテーマと将来の学部学科選択がリンクする場合もありますが、研究したテーマと違った進路が見えてくることもあってもいいと思っています。研究テーマは違ったけれども、その関連分野で見えてきたものにこそ自分の興味、関心、適性があると気づくことができたのであれば、それこそがiProgramや夢ナビ講義動画の効果でしょう。生徒の視野を広げながら、将来の道筋をしっかりと見定める手助けになってほしいと思います。主体的に課題や自身のやりたいことを見つけ、iProgramに限らず授業の中でも受け身になるのではなく、自発的な学びができる生徒をこれからも育成していきたいと考えています。